



# 生明礬

きみょうばん

あ  
か  
さ  
た  
な  
は  
ま  
や  
ら  
わ  
A  
B  
C  
D  
E  
F  
G  
H  
I  
J  
K  
L  
M  
N  
O  
P  
Q  
R  
S  
T  
U  
V  
W  
X  
Y  
Z  
数字



生明礬（粒状）



生明礬（粉状）

## 概要

生明礬（きみょうばん）は、日本画の支持体として用いる和紙や絵絹などのにじみ止めとして使用する礬水液（どうさえき）に含まれる添加成分の一つです。

生明礬は古くからある素材で染色や消臭など様々な用途で使用していました。成分は硫酸アルミニウムカリウムで一般的には薬品として、そして料理にも多く使用されています。

熱すると結晶水を失い焼明礬になります。焼明礬は礬水に適さないので生明礬を使用します。画材店によって粉状や粒状と違いがあります。粒状の生明礬を使用するときは、乳鉢ですりつぶしてから使うと良いでしょう。

## 礬水液をつくる



手順1. 膠液に1リットルの湯をそそぎ、かき混ぜます。



手順3. 生明礬の粒子がなくなるまでよくかき混ぜます。



手順2. よくすり潰した生明礬5グラムを、薄めた膠液に少しずつ入れます。

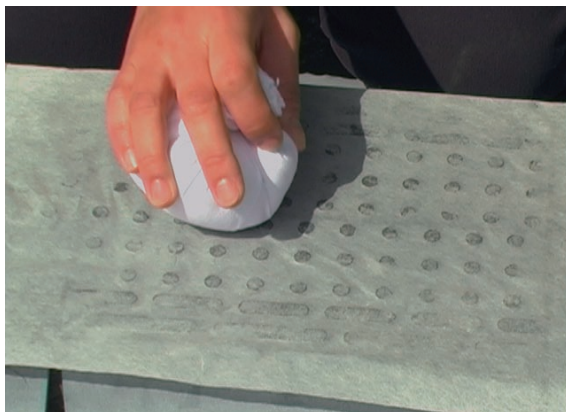
## 使用例 拓刷り (湿拓)



手順1. たんぼは二つ用意し、片方は湿らせておきます。



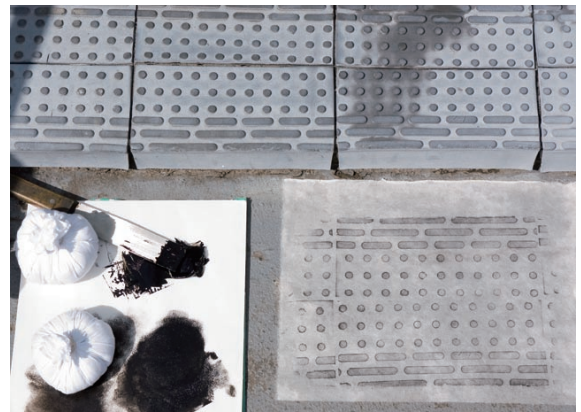
手順2. 題材とする対象物（凹凸のあるもの）に霧吹きで水をかけます。その上に紙をかぶせて再び水をかけます。水の加減に注意しましょう。



手順3. 水に湿らせたたんぼで強くおさえ、凹部に紙を落ち込ませて密着させます。



手順4. 凹部に紙が落ち込んでいるのを確認できたら、もう片方のたんぼに墨汁やインクをとり、凸部に少しずつ着色します。



手順5. インクの量が多すぎると、余計なところになってしまうので気をつけましょう。